

第 23 回大分 NST 研究会終了後の挨拶

皆様、この度はご多忙の中、第 23 回大分 NST 研究会にご参加いただき、誠にありがとうございました。

おかげさまで、多くの方にお集まりいただき、盛会のうちに会を終えることが出来ましたことを、当番世話人として、心から御礼申し上げます。

今から 30 年以上前になりますが、僕が医学部の学生だった頃、「栄養学」を正式に習った覚えがありません。

しかし医師となり、最初に頭を悩ませたのが、その「栄養」でした。

受け持ちの患者さんが入院してこられた時に、どの食事をオーダーしたら良いのかが、全く判らなかったのです。

僕が入局した久留米大学第三内科が心臓と腎臓の専門であったこともあり、ある日心不全と腎不全の両方を合併した患者さんが入院してこられました。

食事オーダーについて心臓グループの先生に尋ねると、「高蛋白低脂肪」の指示が出て、腎臓グループの先生に尋ねると、「低蛋白高脂肪」の指示が出ました。

まだ 1 年目の研修医であった僕は、途方に暮れました。そして、「栄養学」を勉強しようと思ったのです。

でも、その「栄養学」を勉強すればするほど、医療の基礎は「栄養」であることがわかりました。

人間の身体を治すということは、その身体で欠損した部分を再構成するということです。

その構成するすべての材料は栄養からしか得ることが出来ません。

どんなに腕の良い大工さんでも、材料の木材や釘がなければ、家を作ることは出来ないのです。

この「大分 NST 研究会」を通して、ゆっくりでも良いので、その栄養の必要性を、大分の医療従事者にお知らせすることができたら、大分の医療レベルが今以上に底上げできると僕は信じています。

これからも、皆様のご参加をお待ちしております。

中津市民病院 循環器内科 部長
小路 高史